CASBEE広島における重点項目の環境配慮設計概要

CASBEE-広島 （2010年ver.1）

株式会社日本製鋼所独身寮

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。

配　慮　項　目	評価点	重み係数	内　訳									
■1.「地球温暖化対策」の推進												
1.1　建物の熱負荷抑制												
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	0.12	Q1	室内環境	2	温熱環境	2.1	室温制御	3	外皮性能		
	3.0	0.13										
	3.0	0.74	LR1	エネルギー	1	建物の熱負荷抑制						
小計	3.0	0.26										
1.2　自然エネルギーの利用												
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください	2.2	0.50	LR1	エネルギー	2	自然ｴﾈﾙｷﾞｰ利用	2.1	自然ｴﾈﾙｷﾞｰの直接利用				
	3.0	0.50	LR1	エネルギー	2	自然ｴﾈﾙｷﾞｰ利用	2.2	自然ｴﾈﾙｷﾞｰの変換利用				
小計	2.6	0.10										
1.3　設備システムの高効率化												
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください。□ 高効率な空調を採用。個別空調積極	4.1	1.00	LR1	エネルギー	3	設備システムの高効率化						
小計	4.1	0.20										
1.4　設備システムの効率的運用												
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	0.90	LR1	エネルギー	4	効率的運用	4.1	モニタリング				
	3.0	1.00	LR1	エネルギー	4	効率的運用	4.2	運用管理体制				
小計	3.0	0.02										
1.5　資源・マテリアル対策												
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください。□	3.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.1	節水				
	3.0	0.11	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.2	雨水利用・雑排水再利用	1	雨水利用システム導入の有無		
	3.0	0.01	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.2	雨水利用・雑排水再利用	2	雑排水再利システム導入の有無		
	2.0	0.06	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.1	材料使用量の削減				
	3.0	0.19	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.2	既存建築躯体等の継続使用				
	3.0	0.16	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用				
	3.0	0.16	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用				
	2.0	0.04	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.5	持続可能な森林から産出された木材				
	3.0	0.19	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み				
小計	2.9	0.30										
1.6　ライフサイクルCO2排出率												
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください 省エネ設備機器の採用。エコマーク建材の採用。	4.5	1.00	LR3	敷地外環境	1	地球温暖化への配慮						
小計	4.5	0.13										
1.「地球温暖化対策」の推進の評価	**3.3**	**0.69**										
■2.「ヒートアイランド対策」の推進												
2.1　温熱環境の向上												
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください。	2.0	0.49	Q3	室外環境（敷地内）	1	生物環境の保全と創出						
	3.0	0.24	Q3	室外環境（敷地内）	3	地域性・アメニティへの配慮	3.2	敷地内温熱環境の向上				
	2.0	0.27	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.2	温熱環境悪化の改善				
小計	2.2	0.97										
2.2　交通負荷抑制												
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください。 自転車置き場、サービス駐車場を必要十分に確保。	4.0	1.00	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.3	地域インフラへの負荷抑制	3	交通負荷抑制		
小計	4.0	0.03										
2.「ﾋｰﾄｱｲﾗﾝﾄﾞ対策」の推進の評価	**2.3**	**0.17**										
■3.「長寿命化対策」の推進												
3.1　耐用性の向上												
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.0	0.47	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.1	部品・部材の耐用年数	1	耐震性		
	3.0	0.12	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.1	部品・部材の耐用年数	2	免進・制振性能		
	3.0	0.09	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	1	躯体材料の耐用年数		
	3.0	0.09	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		
	3.0	0.04	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		
	3.0	0.03	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	4	空調換気ダクトの更新必要間隔		
	3.0	0.06	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	5	空調・給排水配管の更新必要間隔		
	3.0	0.09	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	6	主要設備機器の更新必要間隔		
小計	3.0	0.49										
3.2　設備の更新性												
（コメント）　※設計の計画上特段に配慮した事項を記載してください。 配管ｽﾍﾟｰｽを上下階同じ位置に設け、各パイプスペースには扉を設けている。	4.0	0.17	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	1	空調配管の更新性		
	4.0	0.17	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	2	給水配管の更新性		
	3.0	0.11	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	3	電気配線の更新性		
	3.0	0.11	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	4	通信配線の更新性		
	3.0	0.22	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	5	設備機器の更新性		
	3.0	0.22	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	6	バックアップスペース		
小計	3.3	0.51										
3.「長寿命化対策」の推進の平均点（上記2項目）	**3.2**	**0.14**										
■重点項目の総平均（上記3項目）	**3.1**											